

★今週の聖句

「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。」
ヨハネによる福音書 15 章 12 節

★ねらい

世界の平和、神と人との平和、人と人との平和、人の心の平和など、さまざまな平和を覚える日の聖句として、今週の聖句があげられている。どこか遠くの平和ではなく、キリストから絶対的に愛されているこの「私」と「あなた」という観点でとらえ、身近で日常的な題材で平和を考える。

★説教作成のヒント

幼児から小学校低学年向けに説教をする場合、第一にすべて子どもたちが知っている言葉を使わなければならない。「愛する」という言葉ですら彼らには実感がわかないだろう。置き換えが必要であり、これが意外と難しい。

★豆知識

ヨハネ 15:9-12 にある「愛する」「愛」の原語は、すべて「アガパオー(動詞)」「アガペー(名詞)」であり、神の絶対的愛を意味する。これは、人間が本来持っていない愛であり、キリストが弟子たちを愛することによって与えてくださった愛である。キリストの愛がいつも人間の愛に先行している。

★説教

今週の聖句は、「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。」ヨハネによる福音書 15 章 12 節です。イエス様がお弟子さんたちに語られたお言葉です。きょうは、イエス様のこのお言葉を学びましょう。

みんなは「さいた、さいた」の歌を知っていますよね。ちょっと歌ってみます。「さいた、さいた、チューリップの花が。ならんだ、ならんだ、赤白黄色。どの花見てもきれいだな。とつてもすばらしい歌です。とくに「どの花見てもきれいだな」というところが、とても大事ですばらしいのです。

チューリップの花の色は、赤、白、黄色でしたね。赤いチューリップが好きな人は手を挙げてください。白いチューリップが好きな人は？ 黄色のチューリップが好きな人は？ 好きな色のチューリップはみんなの中でこんなに分かれるんですよね。それで、自分の好きな色はこれ、という気持ちがどんどん強くなってしまふとどんなことが起きると思う？ 赤いチューリップじゃないと絶対ダメなんて思うと、白や黄色のチューリップはその人の中でどうでもいい、なくてもいいという気持ちになっちゃいますよね。そして、白や黄色のチューリップが好きな人たちのこともどうでもよくなってしまふと、自分さえ良ければいいと思ってしまう。「赤白黄色、どの花見てもきれいだな」というきれいなお心が、いつの間にか自分中心のよごれたお心になってしまうのです。

そこで初めのイエス様のお言葉「わたしがあなたがたを愛したように」というのは、イエス様は赤いチューリップが好きな人だけでなく、白や黄色の好きな人たちも、とつても大事な人で、なくてはならない一人だと思っておられるということなのです。「どの花見てもきれいだな」というお心はイエス様のお心なのでしょうね。それだから、あなたがたも同じようにしな

さいと言われます。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

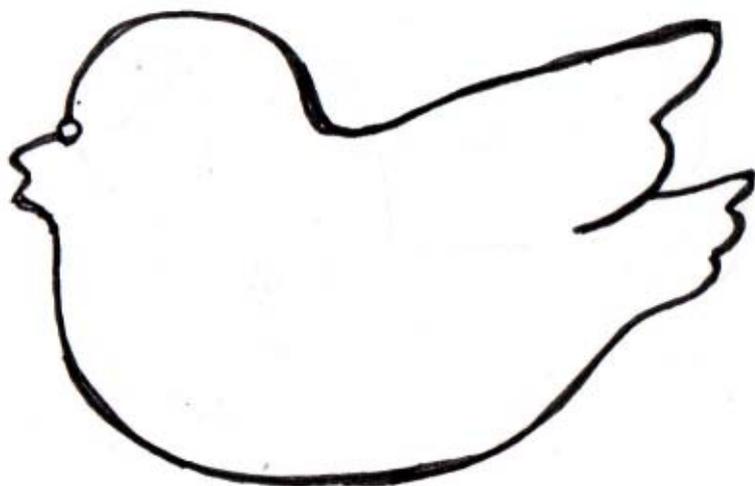
77番

改訂125番

Thuma Mina① 27番

(Thuma Mina は、つかわしてください という意味の讃美歌で日本基督教団出版の世界からの讃美歌集)。詳細(日本基督教団 web サイト) : <http://bp-uccj.jp/publications/book/4818405272/>

やってみよう



- ① 鳩の形に画用紙を切り、そのなかに自分で考えた、平和のことばを書く。
- ② それを壁に貼る、
またはしおりにする、
持って帰って家族と平和について話し合うなどに使いましょう。

話してみよう

- I ①先週1週間を振り返って、いやな思いをしたこと、とてもうれしかったことを思い出して書き出してみよう。そして、みんなに話してもいいと思うことを発表してみよう。
- ②いやな思いをしたことと、とてもうれしかったことの違いは、どこから生じているのか考えてみよう。今週の聖句と違うところ、同じところは何だろうか。
- II ヨハネ福音書の復活物語(20章)では、復活されたイエスが弟子たちの前に姿を現された時、必ず「あなたがたに平和があるように」と言われている。平和=シャローム=主(神)の平和とは何か。弟子たちの置かれた状況から、また今日の社会状況から「平和」の持つ意味を考えてみる。

★今週の聖句

「天の国はパン種に似ている。」

マタイによる福音書 13 章 33 節

★ねらい

人間の目は、目に見える大きく高いものに注がれ、そこに価値があると思われやすい。大きな工作機械は小さな数々の部品からなっており、小さな部品一つでも欠ければ用を果たさない。大事なものは一つの小さな部品なのである。人間の大きな関心が向けられるところ、そこがその人の神だと聖書は考える。天の国は現在の目標とされず見過ごされがちである。

★説教作成のヒント

この日の福音書の日課では、毒麦、からし種、パン種の3つが天の国にたとえられている。幼児向けの説教の場合、複数の話題は聞かずに混乱をきたす。一つに絞ったほうがいいだろう。これは、この箇所に限らず、どの箇所においても心がけていただきたいことである。

★豆知識

「からし種」…3月から4月にかけてイスラエルを訪れると、ガリラヤやイズレエル平原の各地で、菜の花に似た黄色い花の群生を見ることができる。菜の花よりも一回り大きなこれが「からし種」で、その種は1ミリに満たない。聖地の植物図鑑や花図鑑に掲載されているので確認してほしい。

★説教

ある日、ハジメ君はお母さんのお手伝いをしてパンを作りました。いつもはパンを作る機械で作ってしまうのに、その日はお母さんが自分たちの手でパンの生地を作ろうというのです。ハジメ君はまず両手をしっかりと洗いました。それからビニールの手袋をはめてもらい、パン生地をこねる作業を始めます。お母さんは粉に水を加えて、バターを少し入れて、それから別の粉のようなものを入れました。「お母さん、それなあーに?」「これは、イースト菌と言ってね、パンをふくらます働きをするの。これがないとね、ふっくらとしたパンにならないのよ。イースト菌は小さいけど、とっても力があって、ほんの少しだけで十分なのよ。」「ふーん。イースト菌ってすごいんだね」。

それから二人は、パン生地をこね始めました。「お母さん、ずいぶん力が要るんだね。」「そうよ。しっかりこねないとおいしいパンにならないの」。ハジメ君は両手でパン生地をのしかかるようにして、力いっぱいこねていきました。「お母さん、まだやるの?」「そうよ、しっかりね」。懸命にこねていたハジメ君の額には汗が浮かんでいました。「さてと、もういいわ。ハジメ、ありがとうね。」「ふー、疲れたあ」。

二人は生地を小さく分けていき形を整えました。お母さんはそれを冷蔵庫に入れます。「どうして冷蔵庫に入れるの?」「これから、イースト菌が働く時なの。発酵と言って生地がおいしくなるように変えていくの。そうすると生地がパンのように膨らんでくるのよ」。

「へーそうなんだ。」「ところでさ、今週の聖句は何?」「うーんと、天の国はパン種に似ている、だよ。」「そう。そのパン種というのがイースト菌のことなのよ。イエス様は、天の国、神さまの世界のことね。みんなは神さまの世界が小さくて少ないから、つまらない所だと思ってしまうかもしれないけど、そうじゃないとおっしゃるの。少しでも神さまのことを思ってい

ると、イースト菌が働くように、その人の中で神さまの世界がどんどん大きくなって行って、ハジメもイエス様が喜んでくださる子どもになるということなのよ」。

「へえー、パン種って神さまのイースト菌なんだ」。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

9 1 番

改訂 5 9 番

Thuma Mina② 2 1 番

(Thuma Mina は、つかわしてください という意味の賛美歌で日本基督教団出版の世界からの賛美歌集)。詳細 (日本基督教団 web サイト) : <http://bp-uccj.jp/publications/book/4818405272/>

やってみよう

パン種の実験をする

今日のお話にあったパン種がどのくらいブクブクするか、実験して、ハジメ君と似た体験をする。

- ① ペットボトルに水 30 ccを入れる。
- ② 砂糖 10g を入れ、混ぜる。
- ③ ②にドライイースト 1.5g 入れ、混ぜる。
- ④ ふたをして 10 分、待つ。

話してみよう

★話してみよう

- ① 一番好きだったり関心を持っているものや事柄を書き出してみよう。
- ② 目に見えないほどに小さいけれども大きな力を持っているものは何だろう。
- ③ 神さまを思う心が大きくなる秘訣は日ごとの祈りであることへと導く。

★今週の聖句

「出かけて行って持ち物をすっかり売り払い、それを買う」。
マタイによる福音書 13章 46節

★ねらい

あなたは何を選び取るか、と問われた時の答えは人それぞれに異なるだろうが、多くの場合に、その答えはこの世の存在にとどまるものだろう。それは決して永遠のものではない。天の国のたとえの第2週であるが、宝であれ高価な真珠であれ、それが他の何のものにも代えがたいものとして取り上げられている。人生の選択の局面では知恵と信仰が必要であり、何よりいつも天の国が指し示されていることを伝えたい。

★説教作成のヒント

今週も複数の話となっているので絞り込むのが賢明である。自分にとって何が最善なのかを考える機会を幼児も小学生も持つことは少ないと思われるので、物語風に説教を構成するのも一案である。今週の聖句の箇所をふくらませるのもよし、旧約聖書の日課で「聞き分ける心」を選び取ったソロモンを例話にするのもいいだろう。マタイ 6:33 も参考になる。

★豆知識

「真珠」古代より宝石として珍重され、真珠が高価な宝石になったのは、インド、エジプト、ローマ帝国においてである。旧約聖書ではヨブ 28:18 に現出するがこれは赤サンゴを研磨したものと考えられている。新約聖書ではマタイ 7:6, 13:45-46、1 テモテ 2:9、黙示録 17:4, 18:12 などに出てくる。真珠は天国からの祝福の隠喩として用いられ、マタイ福音書にその影響を見ることができる。初期キリスト教会では真珠の使用が禁じられ(1 テモテ)、黙示録の「バビロンの大淫婦」が真珠で着飾っているのも同じ流れにあると思われる。『聖書大事典』参照。

★説教

秋の大運動会に向けて、ハジメ君の幼稚園では鼓笛隊の練習が始まりました。ハジメ君は一番目立つ大太鼓がいいと思い、「先生！ 僕は太鼓をやりたい！」と手を挙げました。「いいですよ。じゃあハジメ君には太鼓をしてみよう」。ハジメ君はうれしくてたまりませんでした。

さて、練習の時間になってハジメ君が大太鼓の前に立つと、「わぁ大きい！」。大太鼓はハジメ君の背丈ほどもありました。これを肩に担いでたたいて行進するのです。先生が大太鼓を肩に担がせてくれました。「わぁ重い！ 僕できるかな」。ハジメ君は急に不安になりました。その日から練習して少しずつ曲を覚えていかなければなりません。そして、みんなとリズムを合わせていかなければなりません。ところが、ハジメ君が気づいたのは、大太鼓も重いけど、大太鼓をたたくばちも腕が痛くなるほど重いのです。それでハジメ君の大太鼓は、いつもみんなより遅れて音が出てしまいます。ピアノや鉄琴や小太鼓でみんなが音をそろえても、ハジメ君の大太鼓がそれをぶち壊しにしまいます。ハジメ君は悲しくなってきました。「なんで大太鼓なんかにしたんだろう。他のものにすればよかった」。

心が暗くなっていたある日、その日は幼稚園の礼拝の日でした。牧師先生が神さまの国についてお話をされました。「神さまの国はみんなが行きたい所で、ほかの所と比べ物にならないくらい、すばらしい所なんです。ところが、人間は目の前のいろいろなものに心を奪われてし

まって、一番すばらしい神さまの国のことを忘れてしまうんです。イエス様はこんなことをおっしゃいました。真珠という宝石を売ったり買ったりして商売をしている人が、ある時とても見事な真珠を市場で見つけたんです。すると、この人は持っているものを全部売って、その見事な真珠を買い求めたとおっしゃるのです。他のものはなくてもいい、これさえあればいいと、この人は思ったのです。神さまの国も、これさえあればいいのだ、といつも思っていなさいと聖書は語り続けてくれるのです。」というお話でした。礼拝が終わると、牧師先生がハジメ君の所にやってきて言いました。「ハジメ君、大太鼓がすばらしく見えたんだよね。みんなはハジメ君ならできると信じているんだよ。みんなよりも少し早くばちを動かし始めてごらん」。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

1 番

改訂 8 番

Thuma Mina② 2 1 番

(Thuma Mina は、つかわしてください という意味の讃美歌で日本基督教団出版の世界からの讃美歌集)。詳細(日本基督教団 web サイト) : <http://bp-uccj.jp/publications/book/4818405272/>

やってみよう

①教師は裏に書いた文字が透けない紙を、人数分 用意する。

②お互いに見えないように、紙に自分の宝物が何かを書く。

③袋に 紙を入れシャッフルする。

中味を 1 人 1 枚引き、誰が書いたものかあてる。

書いた人がわかったら、その宝物について説明してもらおう。

※ゲーム性を高めたければ、紙に紐をホッチキスで止めて、並べ、紐を引っ張って、紙を決める。その時、紙が見えないように何か被せたり、衝立の下を通してよい。

話してみよう

①今一番大事にしているものは何かを書き出して発表してみよう。

②飽きてしまったものは何かを思い出して書いてみよう。

③今一番大事にしているものも、いつか飽きてしまうものはないか考えてみよう。

④いつまでも残る大事なものは何かを考えてみよう。

★今週の聖句

「天を仰いで賛美の祈りを唱え、パンを裂いて弟子たちにお渡しになった」
マタイによる福音書 14 章 19 節

★ねらい

成人男性だけで 5000 人の養いは、4 福音書すべてにある重要な奇跡物語である。「天を仰いで賛美の祈りを唱え、パンを裂いて」という表現は、最後の晩餐や聖餐式を想起させるが、説教がすぐその方向に流れるのは避けたい。詩編 23 編を念頭に、膨大な人々の養い(救い)がまことの羊飼いである主キリストのみに可能であることを伝えたい。

★説教作成のヒント

鍵言葉は「深く憐れみ」と「草の上」である。マルコ福音書では群衆が飼い主のいない羊のような有様だったとある。詩編 23 編では「主はわたしの羊飼い」「青草の原に休ませ」と表現する。ヨハネ福音書では、良い羊飼いは羊のために命を捨てると語られている。5000 人の養いを語りつつ、背後にあるこれらのメッセージを忘れずにいたい。

★豆知識

「深く憐れみ」と訳されているのは特殊な言葉で、「内臓がよじれるような痛みを伴う憐れみ」という意味を持つ。痛みにうめくような、涙が出てくるような、奥底からの憐れみである。決して単なる同情ではない。キリストが人間のありさまにうめいておられるのである。

★説教

イエスさまのもとには、いつもたくさんの方が集まっていました。神さまのことを知りたい、病気をなおしてほしいと願う人や、神さまに自分のことも忘れずに見守ってほしいと願う人たちでした。その日は、とりわけたくさんの人たちが集まり、大人の男の人だけでも 5000 人、ほかに女の人や子どもたちもいましたから、それはそれは、数え切れないほどの数でした。イエスさまはこのたくさんの人たちを見て、とても悲しそうな顔をされました。こんなにもたくさんの方が悲しみながら、自分を導いてくれる人や救ってくれる人を欲しがっていることが分かったからです。イエスさまは人々に神さまのお話をなさり、それは長く続いて夕方近くになってしまいました。

お弟子さんたちは心配になって、「みんなを帰らせてください。そうしたら、それぞれで食事できます」とイエスさまに言いました。ところが、イエスさまは言われるのです。「あなたがたが食べさせなさい」。お弟子さんたちがこんなにたくさんの人たちに食べさせるなんて、お弟子さんたちにはお金もなければ、それにどこに行けば信じられないほど多くの食べ物を買えるというのでしょうか。イエスさまはだれもできないことをお弟子さんに求められたのです。お弟子さんが持っていたのは、たった 5 つのパンと 2 匹の魚だけでした。

イエスさまは人々を青草の上に座らせ、5 つのパンと 2 匹の魚を受け取ると、「天を仰いで賛美の祈りを唱え、パンを裂いて弟子たちにお渡しに」なりました。お弟子さんはそれをみんなに配りました。すると不思議なことに、こんなにたくさんの人にたった 5 つのパンと 2 匹の魚だったのに、みんなが満腹になり、しかもいっぱい余りが残ったのです。

さて、このたくさんの人たちは、おなか为空いて食べるものが欲しくてイエスさまの所に集まったのでしょうか。そうではありません。神さまの話を知りたかったし、悲しんでいたり、

希望を失って心の中が空っぽになってしまい、心の中を満たすものが欲しかったのです。これはイエスさまにしか解決できないことです。たとえパン屑のように小さなものであっても、イエスさまの下さるものは人の心を満たし、余りがいっぱい残るほどに豊かなものなのです。もちろん、君もイエスさまからいただいているのですよ。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

104番

改訂21番

やってみよう

みんなでパンをつくってみよう！

材料

◆強力粉200g

◇砂糖20g

◇ドライイースト4g

☆スキムミルク10g

☆バター24g

塩3g

水130g

- ①◆◇☆をボールに入れる。◇どうしをくっつけて、☆とはなす。水を入れてこねる。
- ②まとまってきたら塩をいれのばしたときに指が透けるまでこねる。濡らした布巾をかけてオーブンの場合35度40分で一次発酵。
- ③1.5〜2倍になり指で生地をおしてもどってこなければ一次発酵終了。8等分（約48gずつ）にわけ丸め、布巾をかぶせて10分置きます。
- ④オープンシートを敷いた鉄板に③を並べオーブンの発酵機能で30分発酵させます。
- ⑤180度に予熱したオーブンで10〜12分焼きます。
- ⑥おいしい丸パンのできあがり！

・教会学校に出席している全員が食べられるように、分け方を考えてみよう。配る順番やパンの大きさなど、どうするか子どもたちで決めてみましょう。

・食べ終わったら片づけも自分たちでやりましょう。パンくずは落ちてないかな？

話してみよう

- ①たった一人で食事をするのと、家族みんなと一緒に食事をするのではどんな違いがあるか考えて発表してみよう。
- ②なぜ違うのか考えてみよう。食事は空腹を満たすためだけにあるのだろうか。
- ③食事の時、食べる以外に何をやっているだろうか。それはどんな役目を果たしているだろうか。

★今週の聖句

「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない。」

マタイによる福音書 14 章 27 節

★ねらい

日課には、イエスの湖上歩行とペトロの湖上歩行が記されている。どちらを取り上げるかによって説教の内容が大きく異なってくる。イエスの湖上歩行はマルコとヨハネにも記されているが、ペトロの湖上歩行はマタイのみである。旧約聖書のホレブでのエリヤの記事を考えて、ここではイエスの湖上歩行に焦点を当ててみたい。

★説教作成のヒント

イエスの湖上歩行という信じがたい奇跡物語は、湖上歩行という奇跡自体に重点を置くと本質が理解しづらくなる。また聞く子どもたちにも超人的なイエスの姿だけが残像となり、苦難に遭う時のイエスの存在という意識が希薄になる。どんな状況でイエスが出現したかに重きを置くとよいだろう。

★豆知識

神顕現を象徴するものは旧約聖書に多く見出されるが、それは新約聖書でも同様である。出エジプト記で記される全山雲に覆われたシナイ山、この日の旧約聖書の日課での激しい風、地震、火、新約聖書では山上の変容の際の雲はその代表例である。雲は人の目を遮り不安に至らせる。激しい風、地震、火は人を恐怖に陥れる。神はそのただ中に、またはその後に顕現する。要するに、人が神に出会う時とは、これらの不安や恐れの中で、あるいはこれらを経験したのちということである。

★説教

先週は5つのパンと2匹の魚のお話をしましたよね。覚えていますか。今日お話しするのはそのあとすぐ起きたことです。あの後、イエスさまはすぐに、お弟子さんだけ舟に乗って湖の向こう岸へ行くようにお命じになって、ご自分はお祈りをするために一人で山に上られました。神さまに感謝するためだったと思います。

お弟子さんたちは舟をこぎ出し始めましたが、すぐに強い風が吹いてきて、漕いでも漕いでも舟は先に進まなくなっていました。イエスさまはそのことに気付いておられました。でも、そのままにしておかれました。お弟子さんたちに分かってほしいことがあったからです。お弟子さんたちは何時間も苦労しました。強い風ですから、小さな舟は大きく揺れます。怖かったですよね。

夜明け近くになりました。お弟子さんたちはずっと漕ぎ続けていたのでくたくたでした。そしてものすごく不安でした。嵐を静めるほどの力のあるイエスさまは今一緒にないし、自分たちで何とかしなくてはならないからです。誰も助けてくれませんから大変ですよ。とても悲しくなっちゃいますよね。

その時、お弟子さんたちは信じられないものを見たのです。誰かが湖の上を自分たちのほうに歩いてくる！ わぁあ！ 幽霊だ！ お弟子さんたちは恐ろしさのあまり、ただ震えるばかりです。すると、その誰かが声をかけてきたのです。「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない。」「えっ?」。なんと、どう考えてもそこにいるはずのないイエスさまだったのです。

湖の上を歩くなんてとても不思議なことですね。人間にできることとは思えません。けれども私たち人間がとても悲しんでいる時、とても不安で恐ろしい時、もう駄目だと思ってしまう時、だれからも見放されたと思ってしまう時でも、イエスさまはびっくりするような方法で私たちを見守っていてくださるのです。イエスさまはお弟子さんたちにこのことをわかってほしかったんですね。だから「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない」とおっしゃったのです。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

1 1 9 番

改訂 1 1 4 番

やってみよう

付箋（大きめ）と書くものを用意します。

- ①付箋に、どんな時につらい、もしくは悲しくなるか書き出していきます。（1枚に1つずつ）
 - ②みんなが書けたら、付箋に書かれたことが起きた時、自分でどうやって乗り越えていくか発表していこう。（発表が難しければ、付箋に書いてください）
 - ③ペアもしくはグループになり、付箋を交換。つらくなっている、悲しくなっている友だちにどんなことができるか考えて発表してみよう。
 - ④一緒にどんなことができるか考えてくれた相手にありがとうの握手をして終わり。
- *助けてくれる友だちがいること、助けてくれる教会の人たちがいること、そして何よりもたすけてくれるイエス様がいることを伝えてください。

話してみよう

- ①つらい時や悲しい時、どんなことがあなたに必要でしょう。誰も助けてくれそうにない時はどうしたらいいでしょう。
- ②真剣な祈りはとげだらけの心を和らげます。具体的にはどんな働きなのでしょう。